

## スウェーデンにおける「家族支援型」の子ども家庭ソーシャルワーク ーソーシャルワーカーによる親と子どもへのアプローチの実際ー

○ 関西大学 吉岡 洋子 (4736)

キーワード：スウェーデン、家族支援、子ども家庭ソーシャルワーク

### 1. 研究目的

児童虐待対応に関する国際比較では従来、児童保護型と家族支援型（家族サービス型）を柱とする二類型が代表的であった（Gilbert 1997, Parton 2014）。そのなかでスウェーデンを含む北欧諸国は「家族支援型」の典型と位置付けられてきた。つまり、親子分離を極力回避すべく、家族との協働を重視して早期から積極的に家族への支援・介入を行う国といえる。一方、本研究の対象国であるスウェーデンは同時に、世界初の体罰禁止法制定（1979年）をはじめ子どもの権利保障の先進国として知られる国でもある（Forsberg & Kröger 2010）。

つまり、スウェーデンの子ども施策、子ども家庭支援は、「親（家族）」と「子ども」視点の重視を共に掲げている。今日では、家族（親）支援の伝統を土台としつつ、子ども参加の必要性和拡大を図る動きが一層高まっているという（Markström et al. 2024）。同国ではこの二つの側面をいかに成立させているのだろうか。

そこで本研究の目的は、家族支援型の典型とされるスウェーデンの子ども家庭ソーシャルワークについて、1)「親」また「子ども」へのアプローチの基盤となる支援モデルとその実践例を基礎自治体での具体例から明らかにする、2)親また子ども各々へのアプローチの関係性を考察する、ことである。日本でも従来から、児童相談所において親との信頼関係構築と子ども保護のバランスが議論されてきた。そして、子ども家庭ソーシャルワーク資格が成立し、支援のあり方が改めて注目される今、スウェーデンからの示唆は日本にも貢献できるものと考えられる。

### 2. 研究の視点および方法

本研究では、スウェーデンの基礎自治体における子ども家庭ソーシャルワーク実践において、「家族支援」と子どもの権利を基盤とする「子ども中心」の考え方がどのような形で表れているのかに注目する。研究方法として、子ども家庭福祉部門で勤務するソーシャルワーカーにインタビュー調査を行った。調査は2023年11月、スウェーデンの都市部X市において、二つの行政区に所属するワーカーら（A区は1名、B区では2名）に話を聞いた。

### 3. 倫理的配慮

発表者の所属機関での研究倫理審査の承諾を得て調査を実施した。書面で同意書を交わし、許可を得てインタビューを録音して文字起こしを行った。また、地名や名前等が特定されないようにすることや、研究目的のみでの利用等について説明して承諾を得た。なお、本報告に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

#### 4. 研究結果

当該自治体における子ども家庭ソーシャルワークの実施体制について確認したうえで、親と子どもへのアプローチについて以下が見い出された。

##### 【家族支援、親へのアプローチ】

二つの行政区とも、明確に家族支援型の仕組みであった。そして、「サインズ・オブ・セーフティ」アプローチを用いて、ワーカーと家族の協働的關係構築を重視していた。ワーカーは親と話し合いを重ね、様々な支援メニューを提供しようとする。そして、「ほとんどの親は協働する」(B区)と語られた。また、専門職は生活に現れたり消えたりする存在であるため、子どもの生活に「存在しつづける(地域の)ネットワーク」の構築が必要とも言及された(A区)。

##### 【子ども中心の視点】

全国で現在、「BBIC (Barns Behov I Centrum)」という、子どものニーズを中心に据えたアセスメントと支援計画策定のモデルが浸透している。これに依拠しつつも、二つの行政区ともに、行政は子ども自身の立場(だけ)に立つことは困難で、どうしても必要な場合はその部分を当事者団体等に委託する例もあるという。ただし、子どもが安心して話せる環境や参画の必要性は繰り返し語られ、例えば、「ある子どもは、(ソーシャルワーカーと)話しやすい場としてファーストフード店を選びました」(B区)と柔軟な対応例がきかれた。

#### 5. 考察

今回の調査では、スウェーデンの子ども家庭ソーシャルワークにおける、「家族(親)支援」と「子ども中心の支援」各々の土台となるアプローチやモデルが明確に確認できた。そこでは、家族支援の枠組みを前提としつつ、その中でいかに子どもの声を聴き、参加を実現できるか可能な工夫が試みられていた。また、専門職としてのソーシャルワーカーが大きな裁量(ただしペア業務とチーム体制で補完)を有し、そこで発揮される柔軟性が、親・子どもへのアプローチの共存を可能にする一つの要素であると考えられた。

#### 引用文献

Forsberg, H. & Kröger, T. (2010) *Social work and child welfare politics: Through Nordic lenses*. Policy Press.

Gilbert N(ed.) (1997) *Combating Child Abuse: International Perspectives and Trends*. Oxford University Press.

Markström, A. Et al. (2024) A collaborative process: child participation in interventions provided by Swedish child and family welfare services. *Nordic Social Work Research*.15(1). 153-166.

Parton, Nigel (2014). *The politics of child protection*. Palgrave Macmillan.